

—その通り

ペペは彼の同世代と同じように、ひどく下手な踊りだ、パーティーに行く代わりに会議や独裁反対のデモに行った、しかしスシは気にならなかった。彼女もデモにも行ったし、パーティーも好きではなかった。彼等はソフィアと（ポルセラノサ）公爵のととても近くで踊った、偶然公爵の話が彼等に聞こえた、

—君、あのことをしなければならぬよ。いとしい人、あれをしてね、私のためにね。先日のようにね。加えて、最後は、君に悪いことが起こらないように、分かっているね？

—ボス、あのこと聞こえました？多分他の手立てでしょう。

明け方の4時その光景は恐ろしいものだった、皆が飲み過ぎ、遊びはエロチックになり優美さは無かった。化粧は台無しになり衣装は乱れていた、もし夜の始まりだったら馬鹿げていると言えるだろう、今やまだもっと言える

—どのようにお過ごしでしたか？アルツウロが別れの挨拶をする時彼等に尋ねた。

—とても良かったです。私は大変楽しく過ごしました。

スシが言った。いつでも、とても如才なかった。

—私は嬉しかったです、すぐに君達と逢えることを期待しています。

—勿論、ペペ、君は話すことが出来たでしょうか、君の関心のある人と？

—ある人達とね、然しとても有効でした。もう一度皆さんに感謝です。



車に乗るや否やペペは上着を脱いだ、とても着心地が悪くうんざりしていた。煙草に火をつけて、マラベジャに向けて道（高速）を走った。